

# 教育研究

◀ 研究主題 ▶

児童生徒が自ら進んで

『知る・選ぶ・生かす』姿を目指して (2年次)

## I 主題設定の趣旨

### 1 前研究主題における教育研究の成果と課題

本校では、平成30年度から令和2年度までの3年間、研究主題を「今、そして社会へ。児童生徒一人一人の『生きて働く学び』を目指して」と設定し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの育てたい資質・能力を基に、児童生徒が各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせ、生活に生かすことのできる力を育むことに着目して研究実践を進めた。

「生きて働く学び」を具現化し、学びを生活に生かすために、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる手立てを授業に取り入れたり、単元や題材を通して児童生徒が「問い」を持ち一人一人が思考・判断できるような工夫を行ったり、「習得・活用・探究」という学びのプロセスを意識した指導計画を構想したりして、授業づくりに取り組んだ。こうした実践を重ねる中で、児童生徒の学びを一つの授業の中で完結させるのではなく、教師が意図的に授業以外でも手立てを講じて学びを実践できる場を設けることで、他の授業や休み時間、学校外の様々な場面で、学びを生かす姿につながる事が明らかとなった。

しかし、社会生活においては、支援者が限られ、授業で学んだことを生かすことができる場が常に整えられている訳ではない。児童生徒が学んだことを日常生活や社会生活の様々な場面で発揮できるようになるには、児童生徒が自ら進んで物事を考え、問題に気付いて解決しようとしたり、学んだことを生かしたりする力を高めていく必要性を感じた。

### 2 研究主題設定の意図

学習指導要領では、「生きる力」を育むために各教科の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの育てたい資質・能力で整理、具体化され、さらに教科等横断的な視点に立った資質・能力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等が挙げられている。また、各教科の資質・能力の育成を目指すために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践が求められている。特に、「深い学び」を促す教育活動の一つとして挙げられるのが問題解決的な学習である。教師の指導のもとに自ら問題や疑問を持って自ら解決する問題解決的な学習は、主体的な学習態度を養うことができるとともに、育まれた問題解決能力は、日常生活や社会生活において問題場面に遭遇した時にそれらを主体的に解決する時に役立ち、自ら学び続ける「生涯学習できる力」にもつながっていくとされている(北, 2012)。また、特別支援学校学習指導要領解説「総則編」(平成30年)では、教育的対応の基本として「自発的な活動を大切に、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判

断力、表現力等を育むよう指導する」と記載され、知的障がいのある児童生徒においても問題解決的な学習を取り入れて指導することが重要であることが示されている。

本校においても、これまでの実践に加え、問題解決的な学習を取り入れることで、児童生徒は自ら進んで物事を考えたり、問題を解決しようとしたりする力を身に付けていくと考える。そして、その力により学校生活の場面に限らず様々な場面で児童生徒が自ら学びを生かすことができ、生活をより充実させることができるようになるのではないかと考え、研究主題を「児童生徒が自ら進んで『知る・選ぶ・生かす』姿を目指して」とし、令和3年度から3年次計画で新たな研究をスタートさせた。

### 3 研究を通して育てたい児童生徒の力「問題解決していくために必要な力」

本校の教育目標（目指す人間像）には、「自分を高めようと努力する人」「他人をだいにしようとする人」「社会につくそうと努力する人」の三つが示されている。自分を高めようとするためにも、社会につくそうとするためにも、何が問題なのかを捉え、主体的に問題を解決していこうという姿勢が求められる。本校の教育目標の達成に向けても、児童生徒の資質・能力を高め、問題解決していく力を高めていくことは重要だといえる。

問題解決していく力について、学習指導要領では「問題発見・解決能力」として「物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程」と示されている。また、「深い学び」の観点からは、各教科等の見方・考え方を働かせながら、学んだ知識を関連付けてより深く理解したり、問題を見だして解決策を考えたりする学びの過程を大切に学習展開が求められている。知的障がいのある児童生徒にとって、自ら問題を問題として意識化することは難しい（田口, 2019）ため、本校では、問題解決の過程の中でも、児童が問題を捉えた後の「解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行」する部分に焦点を当てる。この問題解決の過程を遂行する力を本校では、「問題解決していくために必要な力」とし、「知る」（知識、技能）、「選ぶ」（思考、判断）、「生かす」（主体的な活動）という三つの力に整理して考える（表1）。これらは、学習指導要領に示されている三つの育成を目指す資質・能力とも関連しており、「知る」は「知識及び技能」に、「選ぶ」は「思考力、判断力、表現力等」に主に關わり、「生かす」は「知る」「選ぶ」の過程を経て表現される児童生徒の姿として捉えることができる。なお、「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒が問題や学習課題を捉え、「知る」「選ぶ」「生かす」の力を生かして問題を解決していく主体的な取組と考える。

表1 「問題解決していくために必要な力」

知る (知識、技能)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題にかかわる知識や技能を習得する。</li> <li>○ 問題にかかわる既習事項を想起する。</li> <li>○ 知識についての理解をより深める。</li> </ul>
選ぶ (思考、判断)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題を解決するために必要な知識や技能を選択する。</li> <li>○ 問題の状況と知識や技能を結び付けて、解決方法を考え、決定する。</li> </ul>
生かす (主体的な活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題を解決するために選択したことや考えたことを実行する。</li> <li>○ 実行した結果について振り返る。</li> </ul>

以上の三つの力から成る「問題解決していくために必要な力」を発揮することで、児童生徒が問題や目標に対して、解決策を見だし目標達成に向けて主体的に行動することができるようになると考えられることから、研究を通して児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育てたい。

#### 4 研究の取組の考え

児童生徒は自ら問題や疑問を持って自ら解決していく学習を繰り返し体験することで、児童生徒の問題解決能力が育まれることができる（北,2012）。本校では、問題を解決する学習に繰り返し取り組む過程を「『知る・選ぶ・生かす』の学習サイクル」とし、「問題解決していくために必要な力」である「知る」「選ぶ」「生かす」の三つの力を働かせて問題を解決し目標を達成する学習過程を設定した（図1）。この「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践を行うことで、「問題解決していくために必要な力」を高めていくことができると考える。なお、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業において、教師には、児童生徒が問題や学習課題を主体的に捉え、意欲を持って学習に取り組むことができるような目標を設定することが求められる。

また、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育てるためには、教師自身が児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉える必要がある。児童生徒が既に持っている「知る」「選ぶ」「生かす」における力と授業を通して成長した「知る」「選ぶ」「生かす」姿を見取り、比較しながら適切に評価することによって、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や教師の指導の有効性を探ることができると考える。

以上のように、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践をするとともに、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉え評価することにより、「問題解決していくために必要な力」を育てる授業の在り方や効果的な指導・支援を明らかにする。さらには、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を育み、自ら問題を解決しようとする姿の具現化につなげていきたい。

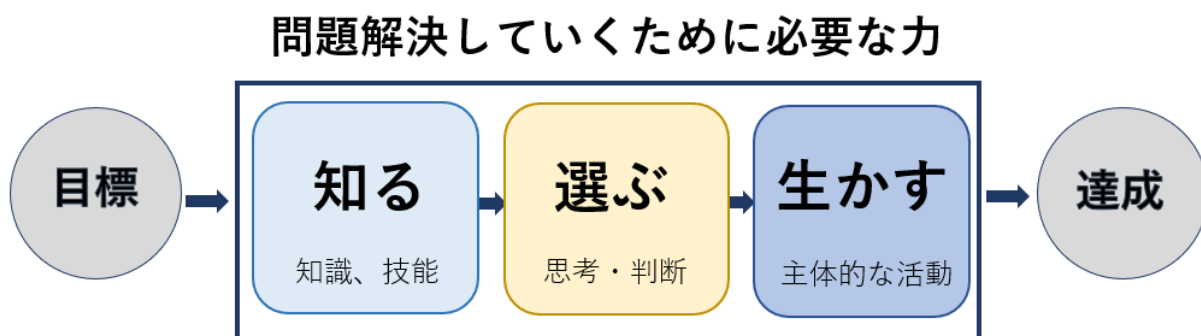


図1 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクル

## II 研究の概要

### 1 研究の目的

児童生徒一人一人が「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを通して、問題解決の見通しを持ち、目標に自ら進んで向かうことができる姿の実現を目指す。

### 2 研究の内容

- (1) 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業を実践し、教師の指導の在り方等の有効性を検証する。
- (2) 児童生徒の行動から「知る」「選ぶ」「生かす」姿を的確に捉え、適切に評価する。
- (3) 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおける、児童生徒に必要な力や効果的な指導等について整理し、指導・支援の充実を目指す指標を作成する。

### 3 研究の方法

- (1) 学部ごとに研究授業を行い、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践について考察する。
- (2) 授業や日常生活での児童生徒の行動の様子から「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉えて評価し、その変容や成長の要因を考察する。
- (3) 授業実践をもとに、「問題解決していくために必要な力」を洗い出すとともに、その力を高めていく効果的な指導について整理する。

### 4 研究の計画（3年計画）

1年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくりを実践する。</li><li>・ 児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉える。</li></ul>
2年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業実践をもとに、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおいて、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を洗い出す。</li><li>・ 児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の変容から、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の在り方や効果的な教師の指導・支援を探る。</li></ul>
3年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルにおいて、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を整理し、指導・支援の充実を目指す指標としてまとめる。</li><li>・ これまでの研究の成果と課題を明らかにし、次期主題研究につなげる。</li></ul>

### Ⅲ 1 年次研究の取組 (※詳細については研究紀要第44号をご覧ください。)

#### 1 1 年次研究の概要

##### (1) 研究の考え

「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを授業に取り入れることで、児童生徒が「問題解決していくために必要な力」を発揮して、目標に向かって問題を解決していく姿につながるだろう。

##### (2) 研究の内容及び方法

1 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくり
○ 研究全体会や授業実践の場を通して、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルについての共通理解を図る。
○ 学部ごとに授業実践を通して、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点を取り入れた授業づくりを行う。
○ 児童生徒の姿を「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で観察し、事後研究会での協議を通して、授業の組み立てや教師の手立ての妥当性や有効性について検証する。
2 児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿の的確な把握
○ 単元や授業を構想する際に、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から、目指す児童生徒の姿を明確にして、授業実践を行う。
○ 授業参観において、児童生徒の行動、表情、反応等から児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を捉えて、評価する。

##### (3) 研究の経過

月	内 容
4 5	○ 全体研究計画・学部研究計画による推進 ・ 「知る」「選ぶ」「生かす」の視点についての共通理解 ・ 教育実践研修会に向けた取り組み（学習指導案の作成、学部内検討）
6	○ 教育実践研修会の実施（小学部、中学部、高等部それぞれ別日に実施）
7 8	○ 「知る」「選ぶ」「生かす」の視点を取り入れた学習指導案の検討
9	○ 授業評価ワークシートを用いた授業参観・研究協議の視点の共有化
10	○ 教育研究学校公開の実施
11 12	○ 教育研究学校公開反省
1	○ 研究紀要44号の作成
2	○ 1年次研究のまとめ
3	○ 2年次の研究構想と推進計画

## 2 1年次の研究のまとめ

### (1) 研究の成果

#### ① 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業づくり

##### 単元全体と授業における「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルの工夫

「知る・選ぶ・生かす」の視点で単元や授業を構築する中で、「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを、単元全体と一単位時間あたりの授業に取り入れることが有効であることが見えてきた。前者を「単元を通した学習サイクル」、後者を「授業における学習サイクル」とし、両者の関連を図2に示す。

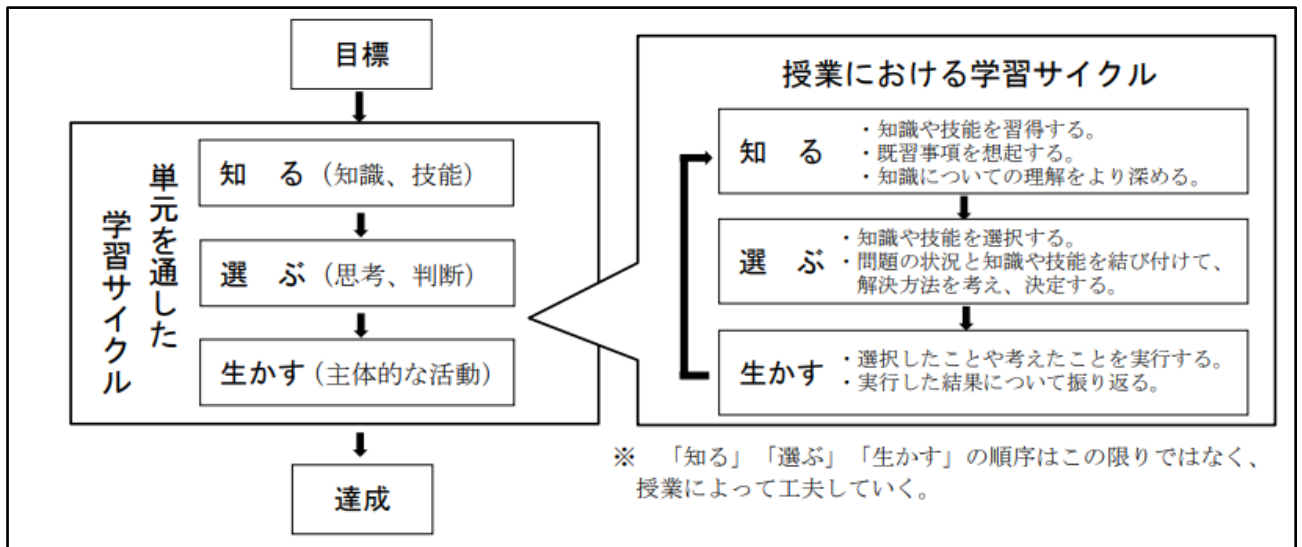


図2 単元全体と一時間における「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルの関連図

#### ア 「単元を通した学習サイクル」について

単元構成において「知る」「選ぶ」「生かす」の三つの力を段階的にどのように育てるかという視点で設定された。各学部の実践を見ると、単元の始め（第1次）は「知る」を中心に展開し、単元が進むにつれて、第2次では「知る」に加えて「選ぶ」、第3次では「生かす」を主に取り入れていくような単元構成が多く見られた。このように、単元構成を工夫することで、単元の目標達成に向けた段階的な指導を進めることができ、児童生徒は「知る」で得た知識や技能を高めながら、「選ぶ」「生かす」を活発に展開することができた。単元構成において、教師は授業のねらいや児童生徒の実態等によって、「知る」「選ぶ」「生かす」をどの段階で取り入れるかを工夫することが重要であると分かった。

#### イ 「授業における学習サイクル」について

「知る」「選ぶ」「生かす」の三つの力をどのように関連させながら一単位時間の授業を展開するかという視点で設定された。各学部の実践を見ると、どの実践においても「知る」で習得した知識や技能を活用しながら「選ぶ」「生かす」を取り入れた授業が組み立てられていた。

授業の導入において、児童生徒が習得している知識や技能を想起したり、目標に向かって取り組もうとする意欲を高めたりするための工夫が見られた。教師は、児童生徒が既習事項をど

ここまで理解しているのかを捉えた上で、教材提示の仕方やかかわりを工夫していた。児童生徒はそれらを手掛かりとしながら、「選ぶ」「生かす」において、これまでの学びを生かして進んで学習活動に取り組み、目標を達成する姿が多く見られた。これらのことから、授業において「知る」「選ぶ」「生かす」のどこに焦点を当て、それらをどのように関連させながら指導するかを考えて授業を組み立てることが必要であることが分かった。

以上のことから、「単元を通した学習サイクル」と「授業における学習サイクル」の関連を考えて授業を組み立てることで、単元の各段階での授業のねらいが明確になったり、授業展開の工夫が図られたりして、児童生徒の問題解決していくために必要な力を育てることにつながることが分かった。

### 児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿を引き出すための手立ての工夫

「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業の中で、児童生徒が目標に向かって問題を解決する姿を引き出すことができるよう、様々な手立てが講じられた。各学部の実践において共通する手立ての工夫として、以下の二つが挙げられる。

#### ア 既習事項を想起するための手立て

児童生徒が、既知の知識・技能や授業内でそれまでに得た学びを想起し、活用することができるような手立てが多く取り入れられた。具体的には、教師はワークシートやカード、表、チェックリストなどを用いてそれまでの学びをまとめ、児童生徒が活用できるような形で提示した。児童生徒に提示する際に、教師は表の内容を説明したり、チェックリストの内容を読んだりするなど、児童生徒の理解に合わせて知識や既習事項を引き出すかかわりを行っていた。このように、児童生徒が視覚的な情報と教師からの支援を手掛かりとして既習事項を思い出したり、知識や技能の中から必要な情報を想起したりしながら取り組む姿が見られた。

以上のことから、「知る」で既習事項を想起させる手立てを工夫することが、「選ぶ」「生かす」につなげるために大切であることが分かった。

#### イ 学習の振り返りにより学びを深めるための手立て

各学部の実践において、学習の振り返りを通して、児童生徒が自分の知識の理解を深めたり、新たな学びを得たりすることができるような手立てが実践された。具体的な例として、授業のまとめの場面でグループやペアになり意見を交流する活動を設定して、友達と考えを共有しながら振り返ることができるようにしていた。その中で、学習の振り返りを焦点化するよう、児童生徒の活動を動画で提示したり、既習事項をまとめた表を提示したりするなどの手立てが講じられていた。その際、教師が意図的に考えさせたい場面を提示したり、児童生徒の気付きを取り上げたりしながら、児童生徒の考えや意見を引き出すよう働き掛けを工夫していた。これらの手立てにより、児童生徒は学習内容の理解を深めたり、新たな気付きを得たりなど、学びを深めていく姿が見られた。

これらのことから、「選ぶ」「生かす」において学習を振り返る手立てを工夫することで、児童生徒が「知る」を生かし、新たな気付きを得て、深い学びが育まれていくことが分かった。

以上のことから、既習事項を想起させる手立てや学習を振り返る活動の設定により、児童生徒の学びを深め、判断力や表現力を高めていくことが分かった。このように、児童生徒の認知面を踏まえた手立てにより、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を引き出すことができた。

## ② 児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿の的確な把握

### 単元を通して目指す児童生徒の姿の設定による的確な行動観察

授業を構築するにあたり、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から単元における目指す児童生徒の姿を検討した。単元や授業を構想する上で、「知る」「選ぶ」「生かす」姿がどのような場面で発揮されるかを整理したことで、目指す児童生徒の姿が具体的に設定され、児童生徒の行動を観察していく視点が明確となった。

教育研究学校公開における各学部の実践では、以下のような「目指す児童生徒の姿」を設定した。

- 小学部「学習したことを想起したり、友達の活動の様子を見たりすることで、水のかさの比べ方に気付き、考えながら学習に取り組む姿」
- 中学部「帆掛け車を作る活動を通して、風の力と車の動きの関係性に気付き、自分の意見を整理して伝える姿」
- 高等部「気遣いチェックリストを活用し、お客様や仲間を気遣いながら状況を判断して、自ら行動することができる姿」

目指す児童生徒の姿を設定することにより、単元や授業のねらいの達成に向けた児童生徒の姿が具体化され、教師が児童生徒の行動の意味を推測し、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から観察するようになってきた。また、授業での行動観察をもとに手立てや学習活動、さらには単元の展開などについても見直しや改善を行うことができた。

### 「授業評価ワークシート」による児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の多角的な把握

授業における児童生徒の様子から「知る」「選ぶ」「生かす」姿として現れている行動を見取り、教師の手立てやかかわり方などの有効性や効果について評価することができるよう、図3の「授業評価ワークシート」を活用した。目指す児童生徒の姿をもとに「知る」「選ぶ」「生かす」の視点で児童生徒の学習の様子を観察し、事後研究会において、授業を参観した教師が捉えた「知る」「選ぶ」「生かす」姿を付箋に記入し、それらを「授業評価ワークシート」に貼りながら協議を行った。「授業評価ワークシート」を活用することで、教師間で児童生徒の行動の意味や教師のかかわり方などについて活発な話し合いがなされた。さらに、話し合いの内容が可視化されることで、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿が明らかになり、問題解決していく力が、どのように発揮されていたかを検討することができた。このような事後研究会を通して、児童生徒の姿を様々な視点から捉えることで、授業に取り入れた「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルの効果や手立ての有効性を検証することができた。



授業評価ワークシート					
目指す姿					
研究に関わる協議の柱 ○ ○					
授業展開	子供の姿 (行動、表情、反応等)				教師のかかわり、教材教具、 場の設定等
	知る	選ぶ	生かす	その他	
1 本時の学習内容を捉える。					
2 水のかさを比べる。					

図3 授業評価ワークシート

(2) 研究の課題

児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の的確な実態把握の必要性

各学部の実践において、次の課題が挙げられた。

- 言葉での振り返りが多くなり、話し合いの内容を十分理解していない生徒がいた。
- 問題を考えさせる場面では、教師の言葉掛けが多くなっていた。
- 活動に取り組む必要性が理解できていないようだった。

以上の課題から、児童生徒が問題を解決するために必要な手立てが十分検討されていなかったり、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の実態把握が不十分で手立てや活動内容にうまく生かされなかったりした可能性が考えられる。

これらのことから、単元や授業を構想する段階で、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の実態をよりの確に捉え、手立てや活動内容の設定などに生かしていくことが重要であることが分かった。児童生徒の実態把握を的確に行うための視点については今後検討していくが、視点の一つとして、見る力や聞く力、記憶の保持など、認知面からのアプローチが考えられる。これらの視点を持って、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿の実態を的確に把握し、授業づくりに生かしていきたい。

## IV 2年次研究の計画

### 1 2年次研究の考え

「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを効果的に取り入れた各教科での授業実践を通して、児童生徒が身に付けた知識や技能をもとに、思考、判断を働かせて活動している姿を具体的に捉え、「問題解決していくために必要な力」を育成することで、児童生徒は目標に向かって問題を解決していこう。

### 2 研究の内容及び方法

#### 1 「問題解決していくために必要な力」の育成を目指す授業づくり

- 目指す児童生徒の姿を具体的に設定し、「知る」「選ぶ」「生かす」の視点を取り入れた授業づくりを行う。
- 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れた授業実践をすることで、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」を洗い出す。

#### <方法>

- 目指す児童生徒の姿を中心に据えた授業づくりを行い、対象児童生徒を設定し、各教科での授業実践をする。
- 「授業づくりサポートシート」【資料1】を活用して、対象児童生徒の実態を、認知面（見る力や聞く力、記憶の保持など）などを踏まえながら把握し、「知る」「選ぶ」「生かす」で身に付けている力や育てたい力を具体的に捉える。
- 「授業づくりサポートシート」を基に、「問題解決していくために必要な力」を育成する単元計画や授業構想を検討し、授業づくりを行う。
  - ・ 児童生徒の実態から単元において育成したい力を検討し、目指す姿を具体的に設定する。
  - ・ 児童生徒が単元の目標を達成することができるよう、「問題解決していくために必要な力」の育成をどのようなステップで育成していくか検討して単元計画を立案する。
  - ・ 「知る・選ぶ・生かす」の学習サイクルを取り入れて授業を展開するとともに、「目指す姿」を基に「問題解決していくために必要な力」を踏まえた支援や手立てを工夫する。
- 授業実施後、「授業評価ワークシート」【資料2】を活用して協議を行い、児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿から授業を検証し、本時の目標や「目指す姿」にどのように迫れたかを多角的に評価する。

<p><b>2 授業実践をもとに、児童生徒の「知る・選ぶ・生かす」姿の変容の見取りと評価</b></p> <p>○ 児童生徒の「問題解決していくために必要な力」が、単元の始めと終わりでどのように変容したかを見取り、評価する。</p>	
<p>&lt;方法&gt;</p> <p>○ 児童生徒の「問題解決していくために必要な力」の変容から、単元展開や授業での手立て等が「知る」「選ぶ」「生かす」にどのように関与したのかを授業評価ワークシートを活用して分析し、効果的な指導や支援を探る。</p> <p>○ 単元を通して、児童生徒の「問題解決していくために必要な力」が単元の始めと中、終わりでどのように高まったかを、授業づくりサポートシートや授業の記録から分析し、評価する。</p>	

### 3 研究の日程

月	内 容
4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体研究計画・学部研究計画による推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主題研究についての共通理解（研究全体協議会、学部研究会など）</li> <li>・ 教育実践研修会に向けた取り組み（学習指導案の作成、学部内検討）</li> </ul> </li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育実践研修会（高等部）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月15日（水）数学「概数を使って表そう」</li> </ul> </li> <li>○ 教育実践研修会（中学部）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月22日（水）国語「紹介文を書こう」</li> </ul> </li> </ul>
7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育実践研修会（小学部）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月 4日（月）体育「ようい どん ～目指せ 忍者名人！～」</li> </ul> </li> <li>○ 教育実践研修会の反省</li> <li>○ 研究中間発表に向けたまとめ</li> <li>○ 教育研究学校公開に向けた取り組み（学習指導案の作成、学部内検討）</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究中間発表</li> <li>○ 教育研究学校公開事前研究会の実施（9月中旬）</li> <li>○ <b>教育研究学校公開：9月30日（金）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業公開                   <ul style="list-style-type: none"> <li>（小学部）国語「相手に分かるように伝えよう～買い物に行こう～」</li> <li>（中学部）理科「物の重さを比べよう」</li> <li>（高等部）音楽「箏の響きを味わおう～友達と美しい音色を奏でよう～」</li> </ul> </li> <li>・ 講演会                   <ul style="list-style-type: none"> <li>「文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 加藤 宏昭氏」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育研究学校公開反省</li> </ul>
11	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究紀要45号の作成</li> </ul>
1	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2年次研究のまとめ</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年次の研究構想と推進計画</li> </ul>

# 授業づくりサポートシート

【資料1】

## 1 対象児童・生徒の実態

生活の実態	生活の実態については、児童生徒の課題や興味・関心について記入する。教科の実態については、これまでの学習状況や何をどこまで習得しているのか記入する。
教科の実態	

## 2 教科・単元（題材）

教科	
単元名（題材名）	
指導形態	
主な学習活動	

## 3 問題解決していくために必要な力（児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」の実態）○得意 / ▲苦手

知る	課題を捉える力	(例) ○ 視覚的に捉えることが得意なので、課題を文字やイラストで提示すると課題を捉えやすい。 ▲ 注意が逸れやすく、音声言語だけでは課題を捉えることは難しい。
	既習事項を想起する力	
	既習事項と新たな知識を結び付ける力	
選ぶ	比較する力	<p>児童生徒の行動の様子から、問題解決していくために必要な力の実態を洗い出す。 ※苦手な部分だけでなく、得意な部分にも目を向ける。</p> <p>(例) ○○を提示すると○○できる。 ※全てを埋める必要はない。 ※ここで洗い出した実態をもとに、支援や手立てを考えていく。 ※その他考えられる必要な力について追記する。</p>
	考えを切り替える力	
	結果を予測する力	
生かす	考えを行動に移す力	
	出来事を思い起こす力	
	結果を捉え、評価する力	
	さらに工夫して取り組もうとする力	
全体	集中して課題に向かう力	
	主体的に課題に向かう力	
	学びを記憶しておく力	
	感情をコントロールする力	

4 目指す姿「教科の見方・考え方を生かして課題を解決する姿」

目指す姿は、授業づくりサポートシートの問題解決していくために必要な力で洗い出した力で特にこの単元で高めたい力を中心に目指す姿を設定する。

5 単元展開 「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から

展 開			学習活動を設定した意図や価値
一 次	知る		
	選ぶ		
	生かす		
二 次	知る	<p>単元の中に、「知る」(知識、技能)、「選ぶ」(思考、判断)、「生かす」(主体的な活動)を取り入れた意図や価値を記入する。</p> <p>※児童生徒が単元の目標を達成することができるよう、「知る」「選ぶ」「生かす」をどの段階で取り上げていくのかを工夫する。その際、授業のねらいや児童生徒の実態を踏まえて考える。</p>	
	選ぶ		
	生かす		
三 次	知る		
	選ぶ		
	生かす		

6 指導過程 「知る」「選ぶ」「生かす」の視点から

活 動			○ 教材 / ・ かかわり、手立て
導 入	知る		
	選ぶ		
	生かす		
展 開	知る	<p>1時間の授業の中で、目指す姿の実現に向けて本時のめあてが達成できるように「知る」「選ぶ」「生かす」をどのように関連させながら活動を設定するのか記載する。また、「問題解決していくために必要な力」で洗い出した実態を踏まえて、「問題解決していくために必要な力」を支えたり、伸ばしたりするかかわりや手立てを考え、記入する。</p>	
	選ぶ		
	生かす		
ま と め	知る		
	選ぶ		
	生かす		



目指す姿				
本時で高めたい力				
授業展開	知る	選ぶ	生かす	その他

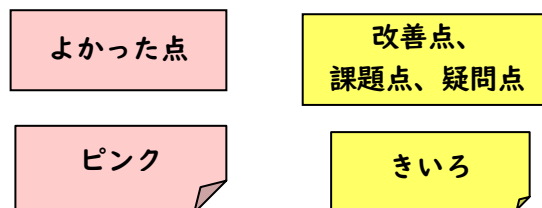
**授業を参観する際のポイント**

「本時で高めたい力が発揮されているかどうか」「手立ては有効であったか」対象児童生徒の「知る」「選ぶ」「生かす」姿を観察し、教師のかかわりや教材・教具などの手立てについて考察する。

**授業評価ワークシートの使い方**

授業評価ワークシートは、研究協議会の際に使用します。実際には、拡大したものが各グループに配付されます。予め付せん紙にご意見をご記入の上、研究協議会にご参加ください。

- ① 授業を参観しながらメモをとる。
- ② 付せん紙に感想・意見・改善点等を整理して記入する。



- ③ 授業展開に沿って、ワークシートに付せん紙を貼る。「知る」「選ぶ」「生かす」に分けて該当するところに付せん紙を貼る。何にも当てはまらない、どこに当てはまるか分からない場合は「その他」に貼り、協議の中で検討する。
- ④ 目指す姿に向けて本時で高めたい力が発揮できていたか、高めたい力を発揮するための手立てやかかわりは有効だったかに観点を絞り、協議する。
- ⑤ グループ協議で話し合った内容を発表する。

## <引用・参考文献>

### 引用文献

- 1) 文部科学省 (2018) : 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚園・小学部・中学部)
- 2) 北 俊夫 (2012) : 「教育の小径」NO.49 11月号 ぶんけい教育研究所
- 3) 田口 則良 (2019) : 「生きる力を育てる学習支援 知的障害児のために」 星雲社

### 参考文献

- 1) 文部科学省 (2018) : 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚園・小学部・中学部)
- 2) 文部科学省 (2018) : 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部)
- 3) 文部科学省 (2018) : 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部)
- 4) 文部科学省 (2017) : 特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領
- 5) 文部科学省 (2019) : 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (高等部)
- 6) 文部科学省 (2019) : 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上) (高等部)
- 7) 文部科学省 (2019) : 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編(下) (高等部)
- 8) 福島大学附属特別支援学校 (2019) : 今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指して 研究紀要第41号
- 9) 福島大学附属特別支援学校 (2020) : 今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指して 研究紀要第42号
- 10) 福島大学附属特別支援学校 (2021) : 今、そして社会へ。児童生徒一人一人の「生きて働く学び」を目指して 研究紀要第43号
- 11) 福島大学附属特別支援学校 (2022) : 児童生徒が自ら進んで『知る・選ぶ・生かす』姿を目指して 研究紀要第44号